

第55回全国入浴福祉研修会 ～開催報告～

デベロ老人福祉研究所が主催する第55回全国入浴福祉研修会を2月22日(金)東京都中央区の紙パルプ会館にて開催しました。

基調講演「これからの医療と介護のカタチ」 ～多職種で支える在宅ケア～

基調講演では、医療法人社団悠翔会理事長・診療部長 佐々木 淳 先生にご登壇いただきました。佐々木先生は、首都圏に12か所を展開する全国最大規模の在宅医療クリニックの経営者であり、在宅医でもあります。「治す医療」から「支える医療」を目指し、「診療満足度」や「看取り率」などこれまでとは違う視点から医療を考え、自らも訪問診療を実践されています。

講演では、患者本人が「納得できる」最期であることが大事で、アドバンスケアプランニングの重要性をご説明。訪問入浴介護は「家で最期を迎えたい」という願いを支えるために必要なサービス、医療だけでは患者(利用者)の思いを汲むことはできないからこそ、医師や多職種による関わり合いや、意思の共有などが求められることについてご説明されました。

受講者からは、「利用者についてもそうだが、自分や家族など、死というのを遠ざけるのではなく、身近な事実と受け止めて生活できるようになりたい」、「社会や地域の情勢と現場の実際を熟知されており、自分も社会や地域の一員として、何ができるのか検討したい」など、たくさんの反響の声をいただきました。



佐々木 淳 先生による基調講演

行政説明「介護保険制度の動向について」

「行政説明」では、厚生労働省老健局振興課より宮本和也係長にご登壇いただきました。平成30年度の介護報酬改定後の状況や、介護事業における業務の生産性の向上について、業務改善支援やICT導入支援など今後の介護分野における施策の動向についてご説明いただきました。



地域包括ケア実践事例「まつどDEいきいき高齢者」

～高齢者が安心して暮らし続けることができる地域づくり～

「地域包括ケア実践事例」として、千葉県松戸市福祉長寿部高齢者支援課地域包括ケア推進室の長島朋子保健師長がご登壇。松戸市は都心より20kmに位置し、高度経済成長期にはベッドタウンとして多くの団塊の世代の方が転入し成長・発展。人口49.4万人・高齢化率は25.2%と高齢化の波は一見低そうに見えますが、今後、転入された団塊世代の後期高齢化と単居・老々世帯化、地縁の欠如といった首都圏特有の課題を抱えています。市が抱える課題に対し、個別レベル、日常生活圏域レベル、市レベルといったケア会議のあり方など、課題に応じた取り組みについてご説明、「住み慣れた地域で暮らし続けるための介護サービスとして、訪問入浴介護事業者にも積極的に関わっていただき地域を支えてほしい」と期待の声をいただきました。



同日開催

「訪問入浴介護の今後のあり方に関する調査研究事業」報告会

平成30年度老人保健健康増進等事業

同日開催として、デベロ老人福祉研究所が実施しました、「訪問入浴介護の今後のあり方に関する調査研究事業」の報告会を行いました。

訪問入浴介護におけるICTの活用やアンケートの調査、訪問入浴サービスの利活用など、多角的に調査を実施しました。

報告会では本事業の委員でもある東京都市大学の早坂信哉教授が事業総括としてご登壇。安全や安心といった質を維持しながらも、社会資源としての役割を担い、地域を支える事業者としての責務についてご説明されました。

本事業の報告書はデベロホームページでご覧いただけます。

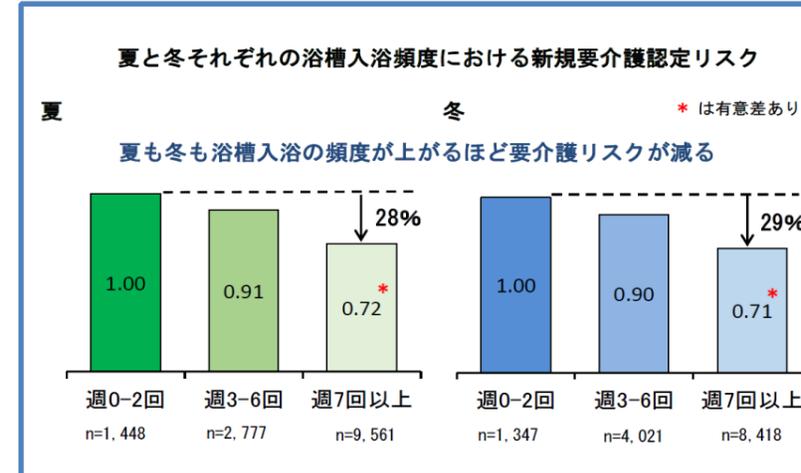
ホームページ: <http://www.develo-group.co.jp>



早坂信哉 教授

湯船に浸かる入浴で要介護認定が3割減

千葉大などの研究グループが、全国18市町村に居住する高齢者約1万4千人を対象に、3年間の追跡調査をおこない、浴槽につかって入浴する頻度とその後の新規要介護認定との関係を調べました。その結果、週に7回以上入浴する高齢者では、週0-2回と比較して約3割、要介護認定のリスクが減少することが分かりました。



■調査の概要

要介護認定を受けていない高齢者13,786人を対象。調査開始時点でアンケートを行い、夏と冬それぞれの浴槽入浴の頻度、生活習慣、健康状態、家庭の経済状況などを質問。対象者を3年間追跡して要介護認定の有無を調査。その後統計解析を行い、年齢や性別、健康状態などの影響を取り除いた上で、浴槽入浴頻度と要介護認定の関係を調査。

今回の研究結果で、湯船に浸かる浴槽入浴の頻度が高いほど要介護認定のリスクが少ないことが分かりました。浴槽入浴は高齢者の健康維持に役立つ可能性を示しています。研究成果を応用することで、入浴を利用した高齢者の介護予防対策ができるかもしれません。ただし、それに先だって入浴による事故や疾患に応じた入浴法などリスクについても、慎重な検討が必要になります。デベロにおいても安全な入浴方法の啓蒙をさらに図ることで、社会への貢献に努めていきます。

本記事は(千葉大報道発表 Press Release No: 157-18-20)を基に作成しています。

お風呂にまつわるちょっとした小話
「お風呂古今東西」は、お風呂infoにて連載中。<http://o-fu-ro.info/>

リラックスのために入浴が効果的なのは周知の事実ですが、最近ではお風呂で体を洗う以外のこと《スマホや読書、女性は美容や趣味などの活動をお風呂で行うなどの「風呂活」》をされる方が増えているそうです。

風呂活の内容は幅広く、読書・映画鑑賞・音楽鑑賞など、関連する商品も多数出回っております。

例えば、お風呂で読書をしたいけどメガネが曇ってしまう、という方には曇り止め機能のついたお風呂専用メガネや、音楽や映画を楽しめる防水のスピーカー、本やスマホが濡れないようにするカバーなど種類は様々です。

風呂活に熱中しすぎると長風呂になってしまい、のぼせてしまうのでは？と心配になりますが、タイマー機能が付いた商品や、緊急呼び出しボタンを設置したバスユニットなどもあり、安心してお風呂を楽しむための配慮も多く開発されています。

入浴の方法もその時代背景で変わっていく事を感じますが、長湯をするならぬめのお湯で半身浴、忘れちゃいけない水分補給といった基本を忘れずに楽しみましょう。



訪問入浴介護のお申込み・お問合わせは